

## コミュニティ組織のガバナンスのあり方に関する研究会（第2回）議事概要

1 開催日時 : 平成22年1月27日(水) 10:00~12:00

### 2 議事の概要:

#### (1) 事務局説明

- 現地調査について・・・資料1、2
- 報告書試案(ver.1)について

#### (2) 意見交換等

##### ○報告書全体

- ・ 自分の団体でも、この案に従いながら訂正をしていかなければいけない部分も確かにある。役員・会員への説明も大事。現行でも明朗会計でやっていて問題はないが、この案のレベルまで細かく丁寧な会計処理はしていない。
- ・ この報告書をつくる目的は、今のやり方を是正しろというのではなく、こういうやり方があるという提案であるはず。大事なことはまず多くの人が抵抗なく会計事務に取り組めることなので、その助けになるようなものを作る。一冊丸ごと読まなくてもポイントが分かるようなものにする。
- ・ 団体は、その地域、地域で長く歴史があるものであり、法律で決められているわけでもないの、自分たちの地域で決めてきたやり方がある。したがって、やり方は団体によって違うが、お金を扱う場合の大事な部分は、これを読んで確認することが大事。これを読んで、こうやっていかなきゃいけないんだなと若い人が変わっていくといい。
- ・ 当団体は、会計はいかに大事かということにポイントを置いて運営しているのできちっとやっていると考えている。他の団体も、それぞれ自分のところは完璧にやっていると思っているはず。しかし、この案を読むと、すごく抜けていることがあることに気づく。もっとこういうところをきちっとしようとか、ここはもっとこういうふうにしていこうというのがあるから、この報告書はいろいろな面でとても参考になる。これをどう活用していくかというのはこれからだと思うが、わかりやすくとてもありがたい。当たり前のことでも、もう一回見直すことができるということ大事。
- ・ 通常は長年培ってきたそれぞれの会のノウハウがあるので、基本的にそれを変えるというものではなくて、自己反省の機縁にするために使われるのであろうと思う。そういう使い方をするんだということが強くメッセージとして出るようにはしがきのところに書くといいのでは

ないか。

- ・印刷物をつくるのはちょっと疑問を持つ。総務省がこうやれと言っていると受け取るところが出てくるといけないので、印刷物をつくるのであれば、あくまで参考であるという研究会の意図がきちんと通じるような配慮をする必要がある。
- ・研究会の意図を市町村の担当課に伝えれば、きちんと伝わると思うので、市町村に配るとするのはよいのではないか。
- ・役員やいろいろなことをやろうという人は、どうしていいかわからないというのが現状。わからないと引いてしまう。ここに今まで行き詰まりがあった。わかれば積極的に動いていくので、参考材料を提示することで、そういう人の積極性を引き出してあげれば、ほかの人も活動に参加するようになる。
- ・町内会等の会計については、マニュアルのようなものがある自治体もあるので、この報告書は一部を抜粋して使えるといい。市町村から、報告書全体をそのまま町内会に配るとかえって混乱を招く場合もある。
- ・総務省から送られてきたとすると、誤解されてあれこれ言われて困ってしまうので、市町村では多分そのまま団体にお渡しはしない。新しく団体をつくる場所やこれまでの会計処理を見直そうとしているところに対して、こういう参考にするものがありますとお渡しするということになると思う。一斉に団体に配ると、それぞれの運営のやり方を否定されたような感覚に陥ってしまうと思うので、言葉を添えて説明するという配り方になると思う。
- ・中身は普通のサークルの事務局などでもそのまま使える。
- ・全体像がわかるし、初歩的な用語も説明しているので、どうしていいかわからない会計役員の方にとってはすごく参考になる。チェックシートが書かれているのが一番いい。
- ・マニュアルというと、このとおりにやる手順書になってしまうので、「マニュアル」という言葉は使わないほうがいい。
- ・様式等に例示として具体的な金額が書いてあると、それが全国標準かと思われてしまう。この点については配慮が必要。

## ○会計監査

- ・会計に詳しい人が会計監査をしているとかなり違う。役員は必ずしも会計に詳しいものではないので、会計監査の指摘は大切なもので、それを会計に生かしている。監事の指摘によって会計処理が少しずつ正しい方向に向かっていると思う。そういう意味で、会計監査の立場のマニュアルがあると、大変生かされると思う。
- ・特定の役員を長くやるのは避けるべきだということもあるけれども、監事は特に年に2回ぐら

いなんだから、しっかりした人に長くやってほしいというのも一つの知恵かもしれない。

- ・ 領収書と数字の点検だけしているのが監事の役割ではなくて、それをもとにある種提言することが役割として重要なんだということが書かれているが、このことを再認識した。ただ、団体等は狭い世界なので、こうすればいいというようなことは監事の方もなかなか言いにくいところがあるのではないか。そういうことが、会計や役員会を批判しているととらえられてしまうこともあると思う。これからは、会の会計だけじゃなくて活動がうまくいくように、監事は重要な役割を負っているんだということがもう少し強調されてもいいかもしれない。
- ・ 将来的な会費の値上げの必要性など監事の立場で書類を見ていると先がわかる。監事が団体の会計の全体像を見ているという意味では、とても安心している。
- ・ 外部の人を監事にするのは抵抗がある。監事というのは一番強い立場なので内部で言いづらいということはない。言うべきことを言わないで、ただチェックしているほうが心配。うちでは、たまたま物を言ってくれる人が監事になっているからかもしれないが、外部の会計に詳しい方に監査をしてもらうという話はでてこない。
- ・ 外部の人には会の内情がわからない。
- ・ 組織の構成員以外は、ほとんど監事はやらない。
- ・ 団体の役員と監事は、あまり参加しない人から見ると一緒に見えてしまう。だから、特に規模が大きく、新住民の方など色々な方がいらっしやると、透明性を高めるという面で、外部の人が見ているという仕掛けの作り方もあるのではないか。外部の人といっても、会長が勝手に自分の友達を呼んできたとかいうのはいけないが。
- ・ 内部が監事の場合、やっていることをよく知ったうえで監査してもらえる。また、あら探しではなく、予算に則ってきちっと団体運営をされてきているんだというのを見ていく。ある程度わかっている人が個々の疑問を言ったりしたほうがよい。
- ・ 透明性、公開性は、地域コミュニティ団体を論じるときが一番大きな論点だと思う。今回の報告書でも、もうちょっと公開ということを強調してもいいと思う。
- ・ これまでの常識としては、外部に頼むというのは多分あまりない。内部の信頼関係でやっているんだから、それでいいんじゃないかということだと思うんだけど、これからは外部の方に見ていただくということもありだと思う。もちろん地域でよく話し合っただけで決めていただくことだが。
- ・ 会計も活動の内容も、外の人には内情はわからないから判断できないというのは実はナンセンスで、何も知らない人が来てもわかるようなものをちゃんとつくってくださいというのがこの報告書の趣旨だと思う。一連の書類を見ていただければ、「うちはこういうことをやっているんです」と胸を張って外の人たちにも言えるようにしていったらどうでしょうかというのが、

この報告書の意図ではないかと思う。補助金や税金を使っているのに、市民一般への説明責任もあるので、外に対しての透明性、公開性も大事だと思うが、中に対しても、よくわかっていない人たちに対して、「これだけのことをやっているんです」ということがきちんと示せるような体制を少しずつつくっていかないと、新規の会員は増えないのではないかと。前年踏襲ではない新しい動きは、中の人たちのいろいろな刺激というのが大事。そういう刺激の呼び水になるのが、会計や活動内容を公開することだと思う。そういう取り組みの一環として、例えば2人いる監事のうちの1人は外の方に頼んでみるとか、連合会の中で人を融通し合うという仕組みができていくといろいろな刺激になって、それが新しい団体の活動を生んでいくきっかけになるかもしれない。

- ・ 情報公開の請求があったときだけでなく、1年間の活動の中でどう住民一般に情報を流していくかという方法についても記載してはどうか。総会で報告するだけでなく、もっと積極的にニュースに載せるとか、ホームページにもかなりの部分を載せるという具体的な公開の方法にぜひ言及したらいい。本編ではなく、Q & Aに入れるといい。
- ・ 閲覧簿の様式には理由を書かせないほうがいいのか。情報公開法も理由は聞かないことになっている。
- ・ 情報公開の理由を聞かれるというのは、1つの心理的抵抗になるのではないかと。
- ・ 帳簿の閲覧を希望する場合に申請する書式があって、そこに理由も書くようになっている。しかし、現実には、「会計帳簿を見たい」などの理由になっていない理由を書いても見せており、書かせること自体には多分意味はない。
- ・ 関心を持ってくださる方になるべく心理的抵抗がなく見ていただける方がいい。

#### ○現金の取り扱いの安全性

- ・ 立替払やキャッシュカードの取り扱いについて、トラブルになることを避けるために普通はしないということだったら、そもそも書かないほうがいいのか。書くにしても、トラブルを防止するためにすべきことなどをもっと丁寧に書いておかないといけないのではないかと。
- ・ うちでは、慶弔費などの出費が急に必要になった時に備えてキャッシュカードを作っている。作るかどうかについては議論になった。というのも大金を役員が自宅に保管するのが嫌だという意見があったから。暗証番号は年度が変わるごとに変えている。
- ・ キャッシュカードを作成するか否かについては、金融機関が近いかどうか等の影響もあり、一律にどうということとは言えない。

## ○会則

- ・ 地域によると思うが、会則を持っていない会は意外と多いのではないか。
- ・ 会則はほとんど持っていると思う。
- ・ 例えば鹿児島県の「やねだん」の会長は、会則の重要性を説いておられる。もしそれが実態だとすれば、会則はそれなりにきちんと例示したほうがいいかもしれない。昔はなくてもよかったが、透明性の確保という観点から会則は必要といわれてきている。また、最近は補助金をもらうときの要件になりつつある。
- ・ 社会学者としてはその辺異論があり、会則がなくても会の運営ができる場合もあると思う。あればいいというものでもなく、会則の持つ意味とか機能の問題。会則がなくてもできていたものが、会則をつくることによってその中身が変わってくるということがあるかもしれない。そういうところにまでちゃんとつくらせなければいけないかどうか。
- ・ 昔は会則がなくてやりやすいようにやってきて、それが仲間内の飲み会の多さにつながったりということもあった。そういう実態を見て団体に入りたがらない人もいた。報告書に会則のひな型を載せておけば、会則が必要だと思った団体がひな形を手軽に手に入れられるという意義はある。
- ・ 会則をつくるかどうかも含めて各団体の自治だと考えられる。
- ・ 世帯の少ない地区では会則がないままこれまでやってきているところも多いが、世帯の多いところはきちっとしたものができている。だから、世帯数が多い地域と、少ない地域で活動に差が出ている。
- ・ 自治会や町内会を名乗るのであれば、やっぱり会則は必要だろう。
- ・ 当自治体では、補助金を申請するところはみんな会則を持っているはず。書類を出してもらって確認している。ただ、面倒だからということで補助金を申請しない団体も今は増えてきている。

## ○決算報告書

- ・ 決算報告をグラフ化するなど工夫をして、理解してもらおう努力もやっていくということを盛り込みたい。そういうことをして、会員から褒められれば、役員のやる気が出てくる。
- ・ 当団体では、行事が終わるごとに使ったお金や購入したものを報告会で報告している。会員への報告のやり方は、決算報告書以外にも色々ある。